

看護の統合と実践 ①

看護管理

電子版あり

●B5判 336頁 カラー 定価3,080円(本体2,800円+税10%)
ISBN978-4-8404-7845-8 第5版 2023年1月

本書の内容

- 「看護の価値を基盤とした管理」「ケアを大切にする職種としての管理」という考えを基本とします。
- 「1年次から学べる看護管理」をキーワードに、看護管理を身近に感じ、学ぶテキストを目指します。
- 「看護管理」は組織のリーダーのみが行うものではなく、看護活動の中に組み込まれたものであること、したがって自身のセルフマネジメント、個別ケアにおいて、看護職として必要な視点・能力であることを認識できるような構成とします。
- 病院での看護や看護管理だけではなく、地域包括ケアの時代に求められるコミュニティの視点、ケアの継続性の視点、市民参加・市民を中心とした視点を取り入れた看護管理を学ぶことを目指します。
- 多様な看護の対象を尊重する視点、国際化の視点(国籍の多様性/外国籍看護師との協働など)、社会人経験看護師の増加といった多様な背景をもつ看護師間の協働といったダイバーシティの視点をもったテキストを目指します。
- 看護師国家試験出題基準(令和5年版)に照合させた構成・内容とします。

編集

吉田 千文	聖路加国際大学名誉教授	手島 恵	東京医療保健大学副学長・看護学研究院科長
志田 京子	大阪公立大学大学院看護学研究科教授	武村 雪絵	東京大学医学部附属病院看護部長

執筆(掲載順)

吉田 千文	聖路加国際大学名誉教授 ＜1章1・2節, 2章1・5・7節, 3章1・3節, 9章1節＞	山田佐登美	元 川崎医療福祉大学看護実践キャリアサポートセンター センター長, 川崎医科大学総合医療センター看護部長参与 ＜5章2節＞
手島 恵	東京医療保健大学副学長・看護学研究科長 ＜1章3節, 10章4節＞	中三川厚子	看護管理コンサルタントN&I代表・東京警察病院看護専門学校非常勤講師＜6章, 10章2節＞
武村 雪絵	東京大学医学部附属病院看護部長 ＜1章4節, 4章8節, 9章2・5節＞	益 加代子	大阪公立大学大学院看護学研究科准教授＜7章2・3節＞
荒木 暁子	東邦大学看護学部教授＜2章2・3節, 5章4節＞	秋山 美紀	武蔵野大学ウェルビーイング学部ウェルビーイング学科教授, 学科長＜8章1・3節＞
松浦 彩美	東京慈恵会医科大学医学部看護学科准教授＜2章4節＞	中山 和弘	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授＜8章2節＞
大塚真理子	長野県看護大学学長＜2章6節＞	木田 亮平	石川県立看護大学看護学部准教授＜8章4節＞
倉岡有美子	令和健康科学大学看護学部看護学科教授＜3章2節＞	磯部 環	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助教 ＜8章5節＞
柳橋 礼子	公益社団法人東京都看護協会会長＜4章1節＞	國江 慶子	東京都立大学大学院人間健康科学研究科看護科学域准教授 ＜9章3節＞
志田 京子	大阪公立大学大学院看護学研究科教授 ＜4章2・3節, 5章1・3節, 7章1・4・5節＞	奥 裕美	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授＜9章4節＞
撫養真紀子	兵庫県立大学看護学部・大学院看護学研究科教授 ＜4章4節1・2・4項＞	関根小乃枝	厚生労働省老健局老人保健課・看護専門官＜10章3節＞
小山田恭子	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 ＜4章4節3項, 10章1節＞	清水日佐愛	匠瑛市訪問看護ステーションつばきの里＜付録＞
高井今日子	町田市民病院副院長・地域連携部長＜4章5～7節＞	前田 浩	順天堂大学医学部附属順天堂医院手術室・看護師長, 手術看護認定看護師/認定看護管理者＜付録＞

目次

第1章●社会の変化と看護職の役割

人々の生活と看護の関わり/日本の看護職の活動の変遷/SDGs: これからの社会と看護の役割・責任/看護のイノベーション

第2章●協働: 他者と共に活動すること

チームを効果的に機能させる/リーダーシップ/フォローシップ/チームの員に求められる協働のための行動/継続看護のための協働/市民・多職種との協働/効果的な「話し合い」

第3章●看護マネジメントとは

看護マネジメントとは/看護マネジメントのプロセス/「効率的・効果的に仕事をすること」ということ

第4章●組織で取り組む看護活動

組織とその構造・機能/分業と協働のしくみ/サービスマネジメント/働く人を生かすマネジメント/モノの管理/情報の管理/カネの管理/非常時への備え

第5章●看護の質向上のための取り組み

看護組織の活動と倫理/医療安全/医療・看護の質改善/組織変革の方法

第6章●看護と経営

看護と経済/看護活動と経営

第7章●業務のマネジメント

業務計画の立案とプロセスマネジメント/チームメンバーとの情報共有と協力/多重課題における対応/夜間における業務マネジメント/業務遂行上の情報管理

第8章●セルフマネジメント

健康的な働き方/ヘルスリテラシー/メンタルヘルス/からだの健康を保つ/時間の管理

第9章●看護専門職とキャリア

専門職とは/社会人になること/看護専門職としてのキャリア/看護職の生涯学習/看護管理に必要な能力

第10章●看護現場に影響を与える制度と法律

看護マネジメントに関係する主な法律/看護に関わる医療・介護制度/保健医療福祉政策と最近の動向/看護の関連機関と団体

シラバス・授業計画案 あり

詳細はP.132へ

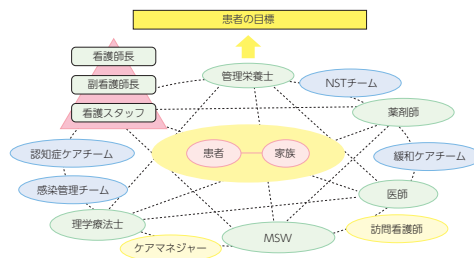
動画
11本
収録難しい内容を
わかりやすく図解

図2-16 入院患者を協働して支援する多職種やチーム

“チームや組織を動かす高度な能力”には、多職種チームやカンファレンス、ケア会議などでリーダーとしてリーダーシップを発揮したり、ファシリテーター*として多職種同士やチームメンバー間の対話や議論を促進したり、コーディネーター*として多職種間の調整をしたり、関わる多職種やチーム全体の組織運営を行うマネジメントなどがある。特に、IPWは、絶え間ない変化が必要な支援活動のため、そのリーダーはメンバーである多職種を信頼して関係性を築き、自律的に問題解決が図れるように協働を促進するファシリテーターのリーダーが求められる。

看護職は、誰もが「協働の基本的な能力」を有した上で、各チームではチー

用語解説*
ファシリテーター
チーム活動の促進者。チーム全体を機動的にみて中立的な立場で人と人との関係をよく観察し、関係性に働き掛ける高度な能力が必要である。チームメンバーの誰もが務めることが可能であり、能力育成をしていく必要がある。

p.69

者ケアに生かせることを実感し、より知識を深めたいと考えようになった。Aさん自身の希望と、上司の勧めもあり、認定看護師になることを決意。その1年後、糖尿病看護認定看護師教育課程に応募した。休職制度を利用し、教育課程を修了、認定審査を受け糖尿病看護認定看護師となった。

現在、専門的な知識・技術を生かした日々の看護ケアに加え、病院の中で組織横断的に働く糖尿病ケアチームでの活動、糖尿病教室の運営に携わっている。



事例

課題を明確にしてステップアップするBさん

公立病院に就職し、一般外科病棟3年、頭頸部外科病棟4年を経て、循環器病棟に異動となったBさん。今までの病棟経験に加え、循環器病棟で繰り返し入院する患者との関わりを通し、退院支援や外来看護の重要性を強く感じるようになっていた。そんな折、病棟での退院調整係となり、退院調整に関わる知識やケアを積極的に伝える役割を担うようになる。結婚後、出産・育児による休業を経て、短時間勤務で職場復帰。復帰後は循環器内科を含む外来に異動となったが、外来で退院後の患者と関わる中で、退院支援についての課題が明確となった。

現在、Bさんは患者支援室に異動し、退院調整に携わる看護師として勤務している。



事例

訪問看護ステーションを起業したCさん

総合病院の内科病棟に就職したCさんは、3年後、学生時代から関心があった訪問看護師になるため病院を退職し、訪問看護ステーションに再就職。経験を積みながら、3年後にはケアマネジャーの資格を取得した。訪問看護を通し、医療的なケアが必要であったり、つらい症状がある利用者でも、適切なプランを作成しケアが提供できれば、自宅での暮らしで生活できることを感じていた。その後、自分が理想とするケアを目指し、訪問看護ステーションを立ち上げた。



事例

臨床経験を経て大学院で学び直し、看護教員になったDさん

総合病院に就職し、外科系病棟で5年間勤務した後、内科病棟に異動となった。高齢者に対する急性期医療に関心をもったDさんは、さらに3年後、このテーマについて研究するため大学院に入學した。大学院では研究のほか、看護学生への実習指導にも関わる機会があり、教える楽しさを感じていた。修士課程修了後、研究と看護教育に携わりたいと思

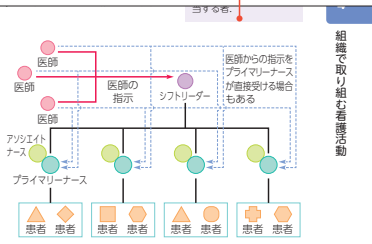
事例を用いて
よりイメージしやすいように工夫

図4-11 プライマリナーシングシステム

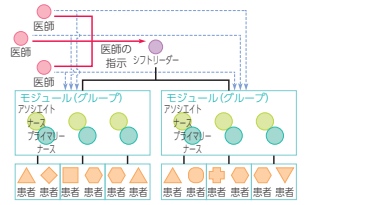


図4-12 モジュール型プライマリナーシング

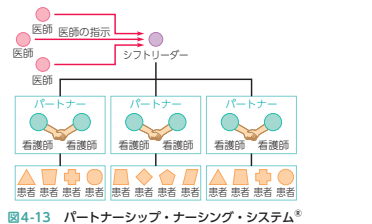


図4-13 パートナーシップ・ナーシング・システム*

111

看護の統合と実践 ③

災害看護

電子版あり

●B5判 312頁 カラー 定価3,080円（本体2,800円＋税10%）
ISBN978-4-8404-7545-7 第5版 2022年1月

本書の内容

- 被災地での看護活動に多数参画する筆者らが、災害看護において大切なこと、学んでほしいことを丁寧に解説しています。
- 災害サイクルに応じた看護活動のポイントを詳しく解説し、特に静穏期・準備期は防災・減災マネジメントの視点で取り上げています。
- 高齢者や障害者、子ども、妊産婦に加え、がんや糖尿病、呼吸機能障害など、継続的な治療を必要とする要配慮者に対する看護を幅広く網羅。より具体的な看護とケアが学べます。
- 「心のケア」については被災者に対するケアだけでなく、支援者に対するケアも深く掘り下げています。支援者が陥りやすい心理状態を知っていれば、臨床現場でも必ず役立ちます。

編集

酒井 明子	福井大学名誉教授、日本災害看護学会理事長	三澤 寿美	元 東北福祉大学健康科学部保健看護学科教授
長田 恵子	東京医療保健大学立川看護学部看護科学学部長・学科長		

執筆（掲載順）

酒井 明子	福井大学名誉教授、日本災害看護学会副理事長 <1章、6章3節、11章、12章2節、12章コラム2>	中川 愛子	元 NPO法人日本ホスピス・在宅ケア研究会理事<6章コラム3>
大嶋 理恵	福井大学医学部附属病院副看護師長・災害看護専門看護師・救急看護認定看護師<1章コラム>	千葉 真也	宮城県大郷町役場保健福祉課健康増進係長・保健師 <6章コラム4>
木村 哲也	福井大学医学部附属病院救急部部長・診療教授 <2章1節、5章1節、12章コラム1>	前田 潤	室蘭工業大学大学院教授<7章>
上田 耕蔵	神戸協同病院院長<2章2節>	頼政 良太	関西学院大学社会起業学科助教<7章コラム>
津久井 進	芦屋西宮市民法律事務所弁護士<3章1節>	窪田 直美	石川県立看護大学寄附講座災害実践看護学講座講師<8章1節>
永井 幸寿	アンサー法律事務所所長<3章2節、3章コラム>	松岡 千代	甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科教授 <8章2節、8章コラム2>
木村 拓郎	減災・復興支援機構理事長<4章1節>	黄 淵照	東北福祉大学教育学部教育学科教授<8章3節1・2>
長田 恵子	東京医療保健大学立川看護学部看護科学学部長・学科長 <4章2節1・2、9章3節1>	阿部 一彦	東北福祉大学名誉教授<8章3節3>
江津 繁	国立病院機構埼玉病院看護師長 <4章2節2・3、4章コラム、6章1・2節、9章3節1、10章コラム2>	磯見 智恵	福井大学医学部看護学科教授<8章4節1～3・7>
室崎 益輝	神戸大学名誉教授、兵庫県立大学名誉教授<4章3節1、6章6節、9章1節・3節2>	繁田 里美	元 福井大学医学部看護学科准教授<8章4節4・5・8>
村井 雅清	被災地NGO協働センター顧問<4章3節2>	清水 誉子	福井大学医学部看護学科講師<8章4節9>
高以良 仁	国立病院機構災害医療センター救命救急科副看護師長 <5章2～5節>	川口めぐみ	福井大学医学部看護学科准教授<8章4節11>
三橋 睦子	国際医療福祉大学福岡保健医療学部看護科学学科学長・教授 <5章6節、12章2節>	三澤 寿美	元 東北福祉大学健康科学部保健看護学科教授 <8章6・7節>
千島佳也子	国立病院機構本部DMAT事務局災害医療課厚生労働省DMAT事務局<5章コラム>	宮澤イザベル	東北医科薬科大学病院総合診療科医師<8章8節>
酒井 彰久	福井大学医学部看護学科助教・災害看護専門看護師<6章3節>	小原真理子	京都看護大学大学院特任教授 <8章コラム1、9章3節2 トピックス>
佐々木久美子	日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科特任教授<6章4節>	八木橋香津代	スズキ記念病院前看護部長・助産師<8章コラム4>
石口 房子	NPO法人日本ホスピス・在宅ケア研究会副理事長 <6章5節、8章5節>	花房 亮	国立病院機構災害医療センター看護師長<9章2節>
濱本 千春	YMCA訪問看護ステーション・ピース所長・がん看護専門看護師 <6章5節、8章4節6・10・5節、8章コラム3>	川口 淳	三重大学大学院工学研究科教授<9章3節3>
小塚 浩	国立病院機構本部DMAT事務局<6章コラム1>	西上あゆみ	藍野大学看護学部看護学科教授<9章コラム1>
小林 賢吾	熊本赤十字病院看護部手術センター看護係長兼国際医療救援部救護課救援係長・災害看護専門看護師<6章コラム2>	加藤 令子	関西医科大学看護学部学部長・研究科長・教授<9章コラム2>
		花房八智代	永平寺町役場防災安全課・災害看護専門看護師<9章コラム3>
		神原 咲子	神戸市看護大学看護学部基盤看護学災害看護・国際看護学分野教授<10章>
		吉椿 雅道	CODE海外災害援助市民センター事務局長<10章コラム1>
		作川 真悟	武生看護専門学校・災害看護専門看護師<11章コラム>
		中山 洋子	文京学院大学大学院看護学研究科特任教授<12章1節1>
		伏見木綿子	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構<12章1節2>

シラバス・授業計画 あり

詳細はP.132へ

動画
15本
収録1
頁

4 火山・噴火災害

日本は世界有数の火山国である。近畿・中国・四国地方を除いた地域に広く活火山が分布し、2023（令和5）年現在、111の活火山が認定され監視されている。噴火により火山性ガスや溶岩塊を噴出したり、**火砕流**や土石流を引き起こし、時に大きな被害をもたらす。また、ほかの自然災害に比べ、噴火活動を繰り返すことで災害が長期化しやすい。

1 火砕流による熱傷・外傷死

火砕流とは、1,000℃近くに達する高温の火砕物が、時速100kmを超える速さで斜面を流れ下る現象で、遭遇すれば火砕物による直接的外傷を負う。一度発生してしまうと避難することは極めて困難であり、危険指定区域に立ち入らないことが唯一の予防策である。

2 火山性ガスと噴石

火山噴火では、大量の二酸化炭素や硫化水素などの有毒ガスと同時に、初速300km/h以上の速さで多くの噴石が噴出する。2014（平成26）年の御嶽山の噴火災害では、大量の噴石による直接的外傷で多くの犠牲者を出した。

山の噴火噴煙や溶岩塊などで作成・公表されている。

plus α

鬼怒川の氾濫

2015（平成27）年9月10日から11日にかけて台風第18号による大雨が関東・東北地方を襲い、鬼怒川では溢水や堤防の決壊が発生し、大きな被害をもたらした。



御嶽山の噴火災害

動画で災害情報が
イメージできる

p.35

災害看護の実際
を詳しく解説

目次

- 第1章●災害看護とは
災害看護の定義／災害と倫理／コラム：被災地内医療者と被災地外支援者の間の葛藤
- 第2章●災害の種類と健康被害
災害の種類と被害・疾病の特徴／災害関連死
- 第3章●災害に関する法制度
災害医療に関する国の政策／災害医療に関する法律／コラム：災害と「緊急事態条項」
- 第4章●災害時の支援体制
災害時の情報収集と伝達／災害医療体制／災害時における連携と協働／コラム：熊本地震におけるDMATの活動を振り返って
- 第5章●災害医療活動の特徴
災害サイクル／体系的対応の基本原則／トリアージ／応急処置・治療／移送・搬送／感染症対策／コラム：「災害看護は看護の原点である」という言葉に支えられた日々
- 第6章●災害初期から中長期における看護活動
初動時（超急性期・急性期）における看護活動／医療救護所での看護活動／避難所での看護活動／応急仮設住宅での看護活動／自宅避難者に対する看護活動／復興期の看護活動／コラム：鬼怒川水害～看護師として何ができるか～／コラム：熊本豪雨における保健師に寄り添った避難所支援と在宅支援／コラム：応急仮設住宅での24時間365日体制の支援活動／コラム：住み慣れた家・地域での暮らしの喜び～仮設住宅での暮らしを経験して～
- 第7章●被災者と支援者の心理の理解と援助
被災者の心理の理解と援助／遺族に必要な支援と看護／支援者の心理の理解と援助／

コラム：足湯ボランティア

第8章●配慮を必要とする人への看護

支援を必要とする要配慮者／高齢者に必要な支援と看護／障害者に必要な支援と看護／継続的な治療が必要な人への支援と看護／医療処置が必要な人への支援と看護／乳幼児および子どもに必要な支援と看護／妊産婦に必要な支援と看護／外国人に必要な支援と看護／コラム：災害時における要配慮者トリアージへの取り組み／コラム：人生の統合と災害～平成28年熊本地震の支援から／コラム：災害とがん患者／コラム：東日本大震災からの提言～そのとき何が起き、どう対処したか～

第9章●防災・減災マネジメント

防災・減災・レジリエンス／災害に備えた事業継続計画（BCP）／災害時の組織体制／コラム：災害を想定した病院看護部の備え／コラム：「特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ」の活用／コラム：日ごろから減災を考える看護「まちの減災ナース指導者」の活動

第10章●災害時の国際援助

海外における災害看護／国際協力活動／コラム：災害時のNGOによる国際援助／コラム：ネパール大地震の経験から

第11章●災害看護教育と研究

災害看護教育／災害看護研究／コラム：災害看護専門看護師教育課程における演習（教育教材作成）での学びから

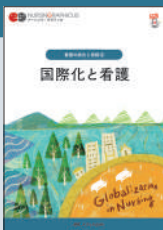
第12章●目に見えない災害への対応と課題

放射線災害／新型コロナウイルス感染症（COVID-19）／コラム：東日本大震災と福島第一原子力発電所事故／コラム：日本で最初のCOVID-19軽症患者受け入れ宿泊施設

145

国際化と看護

電子版あり

●B5判 256頁 カラー 定価2,860円(本体2,600円+税10%)
ISBN978-4-8404-8473-2 第1版 2025年1月

本書の内容

- 日本国内における外国人への看護や国際協力活動における看護など、豊富な事例を紹介しています。相手のもつ文化や宗教など、さまざまな背景に配慮した「個」をみる看護の実際を学ぶことができます。
- グローバルな看護活動に関わる国際機関や健康目標、日本が国際協力活動で果たす役割など、国際看護の基礎を丁寧に解説。
- 特に在留・訪日外国人への看護に焦点を当て、外国人患者が日本で看護を受ける際のさまざまな壁を丁寧に解説し、ケアのポイントや工夫を紹介しています。
- 言葉の壁、医療通訳、保険制度、在留資格などの社会的な問題について深く取り上げています。
- グローバル化によって引き起こされる感染症への対策やリスク管理について学ぶことができます。
- 海外で働く日本人看護師・助産師や、在留外国人が抱える問題の背景と課題、国外で流行する感染症など、バラエティ豊かな話題をコラムで紹介しています。

■編集

大橋 一友 大手前大学国際看護学部教授 岩澤 和子 大阪信愛学院大学学長

■執筆(掲載順)

大橋 一友	大手前大学国際看護学部教授<1章1節、3章4節>	村松 紀子	医療通訳研究会(MEDINT)代表、社会福祉士<4章コラム>
長松 康子	聖路加国際大学看護学部・大学院看護学研究科准教授<1章2節・3節>	鈴木 恵巨	公益社団法人日本看護協会国際部部長<4章4節>
新垣 智子	地方独立行政法人りんくう総合医療センター患者サポートセンター・国際診療科副看護長<1章囲み・4節、5章1・2・3節・コラム>	植木 慎悟	九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野准教授<5章4節>
本庄かおり	大阪医科薬科大学医学部教授<2章1節>	嶋澤 恭子	大手前大学国際看護学部教授<5章5・6節・コラム>
杉田 塩	厚生労働省 前 大臣官房国際課国際協力室国際協力専門官<2章2節、3章3節>	堀 成美	東京科学大学大学院医歯学総合研究科統合臨床感染症学分野非常勤講師<5章7節・コラム>
鈴井江三子	大手前大学大学院国際看護学研究科研究科長・教授<2章3節、3章1節>	吉富志津代	武庫川女子大学心理・社会福祉学部教授<5章コラム、7章1節>
萬谷 恵実	認定NPO法人あおぞらオラオプロジェクトスタッフ<2章コラム>	佐藤 文子	甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科教授<6章1節>
高田 洋介	日本赤十字広島看護大学国際看護学・災害看護学講師<3章2節>	五十嵐ゆかり	聖路加国際大学大学院看護学研究科ウィメンズヘルス・助産学教授<6章2節>
橋本 香織	福岡赤十字病院看護部看護長<3章5節>	李 錦純	関西医科大学看護学部・大学院看護学研究科教授<6章3節>
中道 美言	Adventist Health Glendale Hospital, Neonatal Intensive Unit, Registered Nurse / MemorialCare Miller Children's & Women's Hospital Long Beach, Cardiothoracic Intensive Care Unit, Rdistered Nurse<3章コラム>	松村麻衣子	大阪信愛学院大学看護学部助教、精神看護専門看護師<6章4節>
吉野 都	Registered Midwife Royal North Shore Hospital, Women's, Child & Family Health Devison<3章コラム>	中村 千賀	大阪信愛学院大学看護学部助教<6章5節>
南谷かおり	地方独立行政法人りんくう総合医療センター健康管理センター長兼国際医療広報センター長、大阪大学医学系研究科公衆衛生学教室招へい教授<4章1・2・3節>	斉藤 善久	神戸大学大学院国際協力研究科准教授<6章コラム>
		小笠原理恵	大阪大学大学院医学系研究科国際未来医療学講座特任講師、大阪大学医学部附属病院国際医療センター副センター長<7章2節>
		三島 伸介	関西医科大学総合医療センター総合診療科・感染症内科診療部長、海外渡航者医療センターセンター長<8章1節>
		山下いつ子	元 福岡検疫所鹿児島空港出張所課長補佐<8章2節>
		小川 拓	大阪医科薬科大学病院感染対策室室長・講師<8章3節>

目次

第1章●グローバルに看護を考えるとということ

グローバルな看護職／国際看護の変遷／国境を越える人の社会的動向／臨床現場からみたグローバルな看護

第2章●地球規模の健康課題と保健医療を支える機関

地球規模課題としての社会的健康格差／世界の保健医療を支える機関と重要な概念／国際的な協力活動と看護

第3章●海外における看護

国際協力活動で看護師として働くには／災害現場での看護／国際協力で取り組む看護の質の向上／ODA・JICAに関する事例／パングラデシュにおける日本赤十字社の地域保健活動

第4章●グローバル化する日本の医療の現場

日本の医療機関における外国人診療／外国人を診る日本の医療機関／医療通訳とは／グローバル化する日本の看護

第5章●病院における外国人への看護

在留外国人と訪日外国人の特徴と看護／外来を受診する訪日外国人への看護／救急搬送されてきた患者への看護／子どもへの看護／新生児への看護／妊娠婦への看護／感染症の疑いのある患者への看護

第6章●地域における在留外国人への支援

地域における看護職の活躍／母子健康支援／高齢者への支援／地域における精神看護／がん患者の訪問看護

第7章●国内外における支援の課題

国内における在留外国人への支援の課題：医療通訳制度確立に向けた取り組み／海外における支援の課題

第8章●渡航における感染対策と健康支援

国境を越える感染症とそのリスク／感染症の検疫／渡航における健康支援

シラバス・
授業計画案 あり

詳細はP.132へ

動画
5本
収録豊富な事例で
国内における
看護の実際をイメージ

7 感染症の疑いのある患者への看護

事例 9

研修と発症で受診した留学生
名 前：グエン・ケイ
年 齢：24歳
性 別：男性
出身国・国籍：ベトナム社会主義共和国
滞日歴：3カ月
職 業：日本語学校の学生。ほかの学生とともに日本語学校の寮で共同生活をしている。
既往歴：不明
診 断：水痘
保険の加入：国民健康保険



1 概 要

数日前から続く頭痛が悪化し、発疹が出てきたため、学校の職員と共に夕方
に救急外来を受診した。食欲もなく、来院時の体温は37.7℃であった。倦怠
感が強い。診断は水痘であり、入院となった。

2 アセスメント

グエンさんは片言の日本語しか話せないため、初診担当の看護師が付き添いの
学校職員に経緯を尋ねたが、「～らしい」「～と思う」という正確な情報し
が得られなかった。そのため、病院が契約している遠隔医療通訳を介して問
診・診察を行い、現病歴と既往歴、ワクチン接種歴、似たような症状のある人

p.161



図3-10 指導者の様子

修の継続的な運用という意味で重要である。

そこで、定期的に研修を評価するモニタリング、病院の外部アドバイザーから
アドバイスをもらえるスーパービジョン、基準に基づいて研修が実施できて
いるかを評価する監査の各指針を保健局担当者と作成し、そのしきみを整えた。

4 ベトナム全国へ臨床研修を普及・定着させる

プロジェクト期間中は、研修制度づくりとプロジェクトサイトへの臨床研修
導入を中心に活動を行いながら、終了後にベトナム全国へ普及・定着させるた
めの下準備も同時に行った。保健省がいつまで何をやるのかをまとめたロー
ドマップを作成し、人事異動があっても研修が実行される体制とした。またプ
ロジェクトで開発した教材などを、保健省が全国で使用する教材として承認す
る行政手続きや、看護界のリーダーが参加する看護の学会や看護協会総会など
への情報発信に取り組んだ。

6 国際協力に参画した学び

国際協力は、互いの学び合いである。ベトナムのことを教えても
のことを伝え、ベトナムの看護において何が一番良いのかを一緒に

p.98

海外と国内の両方
の視点から国際看
護を学べる国際協力について
具体的に学ぶ